中間取りまとめ（「たたき台」及び「素案」）に対する主な意見

３／２５中間取りまとめ（素案）に対する意見

＜第１章　高知県の教育を取り巻く現状＞

○　マイナス面が強調されすぎている。
○　判断材料や参考資料が多すぎる。
○　データがたくさんあって夢がない。本文には必要最小限のデータにして、参考資料として後ろに付けてはどうか。
○　「全国的にも高い中学生の私学進学」という項目は削除すべきだと思う。こういう内容であれば、公教育浮揚を図るこの場で、この項目は必要ないのではないか。
○　学力や体力が低いことや不登校は、強みである「情操教育」を生かすこととどう結びつくのかを分かりやすく書いて欲しい。
○　高知県の強みは、これしかないのか。何でもないデータも、解釈によっては強みになるのではないか。何かないと、施策の展開の工夫や重点化がしづらいと思う。
○　子どもの姿も、教員の姿も見えない。今後の方向性として、データを積み上げることは大切だが、「子どもたちが元気に遊ぶ」というようなことも大切ではないか。県民がこの計画を見て、元気が出る、勇気づけられるものを考えて欲しい。

＜第２章　現状の分析を踏まえた今後の方向性＞

○　「現状の分析を踏まえた今後の方向性」とあるが、「第１章　教育を取り巻く現状」で分析は終わっているのではないか。
○　「現状のさらなる分析と考察」の５つの分析・考察と、「今後の教育振興の方向性」の３つの方向性との関係はどうなのか。
○　第２章の「今後の教育振興の方向性」、第３章「基本目標」、第４章「重点目標」はどういうさび分けなのか。
○　第２章の「現状の分析を踏まえた今後の方向性」については、追究の弱さを言及するのではなく、課題解決に向けた追及の力を伸ばすというプラスに持って行けるものにすれば、何を強化しようとしているのかが分かりやすいのではないか。
○　「不退転」「克服」という言葉が気になる。
　「不退転」という決意の固さは分かるが、変えていかなければならないこともある。
　「克服」というと、高知の子どもたちの学力や体力がどうしようもない印象を受ける。
○　「解決できるのは教育しかない」は言い過ぎではないか。
○　方向性が立派過ぎると、県民が自分のものとして考えられなくなるのではないか。

＜第３章　今後 10 年間を見通した基本目標＞

※第２章へ記載

＜第４章　今後５年間の重点目標と具体的に取り組む施策＞

○　「徳」という難しい昔の言葉がポンと出ている。この計画を広く県民に知ってもらうためには、もう少しやさしい言葉がいいのではないか。
○　「徳」という意味を、この計画を見て、正確に理解できないのではないか。
○　「子育て力　日本一の県を目指す」とあるが、「日本一」という言葉はあまり軽く使いたくない。よほどの裏づけがあるとか、素晴らしい施策が必要だと思う。
○　重点目標の「日本一」というのはすごく抵抗がある。
○　「子育て日本一」は、スローガンとしてはいいだろうが、これは基本計画。スローガンで終わっていいのかと思うし、これをどう検証するのか、どういう具体的な施策が出されるのか。

○　「夢」とか「肯定的に」ということがたくさん出ているが、ちょっと力を入れて頑張ったら手が届きそうだなという目標はやるし頑張れるが、遠い世界のことだと思ったらどうか。私が保護者だと「子育て日本一」と言われると、今の日常とちょっと離れているような気がする。
○　「学ぶ喜びを感じ生涯を通して自ら学んでいこう」のところに、学ぶことの意義、目的、ねらいをどこかに入れて欲しい。
○　高知県の課題の中でも、小中連携や中高連携は言われるが、幼・保育所と小学校の連携、幼児教育と小学校の連続性についての論議は非常に甘いと思う。
○　幼保連携といいながら進んでいないのも事実。ひとつの現状分析の中で保育所の問題を幼児教育の中でどういうふうに取扱うかも押さえておかなければならないと思う。
○　「子ども自身が育つ力」を支援する「子育ち支援」も忘れないで欲しい。
○　施策（４）①は、「子どもたちが、宿題や家庭学習をしっかり行える環境を整えます。」が良いのではないか。
○　重点目標の「低迷」という表現はどうか。
○　授業が面白い、勉強がよく分かる、教え方が上手な教員育成という施策が必要。
○　子どもの潜在能力が引き出すことのできる教員育成という施策が必要。
○　今後、どういう学校づくりを目指し、その実現のためにどういう教員を養成していくかが必要。
○　教員の多忙感解消についての記載が必要。
○　意欲ある教員が評価される制度が必要。

＜第５章　目標の達成に向けた環境の醸成＞
○　何故そのような施策をするのか明確に示されるとよい。
○　教員の役割として、「教育者として、子どもをしっかりと指導し、子どもの力を引き出します。」とあるが、「教員のあるべき姿」や「教員はどういう姿を目指すのか」を明確に打ち出せないか。

＜第６章　計画の着実な推進進捗管理＞
なし

＜その他・全般に関わること＞
○　第１章「現状や課題分析」は、第２章以降と比較して、分量が多い。
○　５つの章で第１章と第２章が大きいのは、当然のことだと思う。土佐の教育改革１０年では現状分析が非常に弱かったと思う。今回のこの計画で非常に大事にされているのは、今の高知県の現状は何か。その現状分析の中でどういう課題が出て来ているのかをしっかりと認識する。それにより必然的に課題が出てくるという手法は正しいと思う。
○　具体的で、分かりやすい計画になっていないのではないか。
○　この計画を最後まで読んでみようという気持ちなる、読ませることは大切だと思う。そういうものになっているのか。
○　「教育は、心に火を点けることだ」と言われるが、大人が子どもたちに火を点けてない。そういう一番大切なところが、計画を見てもピンと来ない。
○　この計画を、県民はどういうようにイメージして、どういう方向でいくのかを最初に示せないか。
○　１０年後の高知県の教育界をどういうふうにイメージしているのかをもっと整理したいと思う。学ぶことの意義、目的を皆が分かる。学ぶことの喜びを共有ができる。そういう社会。生涯学習社会ということの教育風土づくりが、本県の場合、これからやっていかなければいけないと思う。学ぶことの目的や意義をしっかりもって学ぶことの喜びを共有できるような教育風土をつくっていくことも大事だと思う。
○　子どもの姿が見える、教師の姿が見える計画にして欲しい。

２／２０中間取りまとめ（たたき台）に対する意見

＜表題：変わろう！変えよう！高知の教育　～すべての県民の可能性が最大限に発揮されるために～＞

・　最初の呼びかけは、「県民の可能性が最大限に発揮されるために」というより、「どういう人をつくりたいのか」をはっきりしたほうが、各学校段階で具体的に取り組むことができる。

＜第１章　高知県の教育を取り巻く現状＞

・　高知県は、高知市に４割の子どもが集まっているという一極集中の特異な現状。本山町と高知市では、教育課題も価値観も違う。踏み込んだ議論が必要。
・　「１　高知の教育を取り巻く現状」の順番の整理が必要。
・　中学校の現状として、私立の問題も盛り込むべき。
・　体験活動に適した教育環境や子どもたちの強い表現力は強みではないか。
・　目標や意欲がない、人との関わる力やｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力が極端に劣るなどに狙いを定めたらどうか。
・　多様な保護者への対応も今の課題。
・　発達障害の子どもも増えており、通常の学級の中における特別支援教育が学校における大きな課題の一つ。
・　子どもたちから見た「教員数が多い」という強みも書くべきではないか。
・　「高知の子どもは火をつけたらすごい」ということは、他県にはないところ。
・　土佐の教育改革１０年で、教育には風穴が開いたと思うし、学校、教員の意識も変わった。これは成果。「議論をしたことは良かった。しかし成果は上がらなかった。」は、文言を変えて欲しい。
・　「（３）県民の教育に対する期待レベルが低い状況」の中で、大人達がもっと頑張らなければいけないということを伝えるためにも「意識が低い」とはっきり書いてはどうか。
・　「豊かな感性」などの強みを活かされてないという部分をクローズアップすべき。
・　自然の豊かさや体験から保障されていた育ちの重要性も入れて欲しい。
・　学校教育や幼児教育（特に幼稚園）に望むことの意識が低いことが高知県の問題。
　「知・徳・体をバランスよく伸ばす」というのは素晴らしい言葉だが、負の要因として扱う時に３つセットにするのは、検討して欲しい。
・　学校がよくなり教育が充実することは、過疎等の地域にとってこれぐらいメリットがある、地域の活性化にもつながるという部分が必要ではないか。

＜第２章　基本的な考え方＞

・　「第２章　基本的な考え方」の「教育を変える」「教育によって変わる」「教育によって変える」は、「変わる」と「変える」がどのように違うのかも含め、章を起こすほど大きい整理なのか。
・　教育風土をつくるということは、生涯学習社会をつくることであり、そのためには、「教育を楽しむ」「教育を受ける喜びや意義」が目的にならなければいけない。

＜第３章　計画期間と目標＞

・　この計画は、１０年間の目標なのか、５年間の方針なのかが分かりにくいので、さび分けが必要。
・　「基本目標」の「（５）家庭における教育を高めよう」や「（６）地域全体で教育にかかわろう」は、「（４）各学校で基礎・基本となるような力を確実に身につけよう」の前、に出して欲しい。
・　「子どもたちの教育をうける権利の保障」、「高等学校の再編整理の方向付け」といった項目も入れる必要がある。
・　高校卒業後、進学するだけでなく就職する人も多い。「重点目標」とまでは言わないが、「就職に向けての立派な社会人の育成」なども必要ではないか。
・「子供を一人前にしていく。社会の中に出して自立して他者と共生して生きていける人間をつくる。」ということが、到達目標なのかと思う。
・　基本目標「（１）心身ともに健康で「徳」をもった土佐人を育てよう」の項目で、「徳育」を具体的施策にするというのは難しいのではないか。

・　「(３)「三つ子の魂百まで」の幼児教育を大切にしよう」は、「乳幼児期」となっていない。乳児期の親子関係が非常に大事。
・　「(５）の家庭における教育を高めよう」で、「厳しさと愛情をもって…」という記述で「厳しさ」が先となっているが、先に、親の優しさ、温かさ、厳しさをしっかり子どもに伝えることが必要。
・　「徳育」とか「知育」という言葉は見直して欲しい。重点目標の表現は、「学力・体力の低迷から脱却し、規範意識を向上させる」というようにしてはどうか。
・　「変わろう」という呼びかけより、高知県の良さを活かす工夫をして、５年くらい頑張ってみようと思うようなものを考えていきたい。

＜第４章　目標の達成に向けて＞
・　基本的な生活習慣を身につけることは、家庭がやるべきこと。親の意識改革をしなければ先へ進めない。
・　今後の県教委、教育事務所、市町村教委の教育行政のあり方も検討が必要。

＜第５章　今後５年間に計画的かつ重点的に取り組む施策＞
・　公立中学校の学力向上のためには、下を上げる教育ではなく、できる生徒を更に伸ばすという教育も必要。
・　学校には、子どもたちに将来の目的や目標意識を持つよう導くことが必要。
・　現状を認識して、各学校で何をやるのかということをしっかり捉えることが必要。
・　継続力をいかにつけていくかは、「教師の質」や「組織」に関わってくる。
・　高知県の強みの「感性」を鍛え上げる、そういう環境を整えることも必要だと思う。

＜第６章　計画の推進に向けて＞
・　これまでの取組で「つめ」や成果に課題があることを考えると、外部の人が教育現場に良いかたちで携わっていくことが必要ではないか。
・　基本計画を誰がどんな形で実践するのか、どういう仕組みでやるのかという議論が必要。
・　県民に問題提起し、こういう方向でやろうと訴える部分と行政や学校が施策としてこうするという部分があり、整理が必要。

＜その他・全般に関わること＞
・　計画は、できるだけ具体的で、シンプルでわかりやすいことが定着につながる。
・　「第２章　基本的な考え方」「第３章の基本目標、重点目標」「４章　目標達成に向けての２学校・家庭・地域の果たすべき責任と役割」の３つの項目にだぶりがある。
・　囲う教育ではなく、解き放すということが何故ないかも踏まえ、５年、１０年後、高知県にどういう学習社会をつくっていったらいいのかという議論に意味がある。
・　「第２章　基本的な考え方」と「第３章　基本目標」と「重点目標」、「第４章　目標の達成に向けて」の関わりが分かりにくい。体系表にすれば分かりやすいのではないか。